

八潮市公共施設マネジメント

自書・基本方針を公表

市では、市民の皆さんに公共施設の現状を知っていただき、今後の公共施設のあり方を共に考えていくため「八潮市公共施設マネジメント基本方針」を作成しました。

八潮市公共施設 マネジメント白書

市では、昭和40年代から50年代の人口増加に合わせて公共施設を整備してきました。しかし、公共施設の多くは築後30年から40年以上が経過し、老朽化による維持管理費用が増大し、大きな財政負担が見込まれます。八潮市公共施設マネジメント白書では、市が所有し管理する公共施設およ

表1

62.1%が30年以上前の建物です。

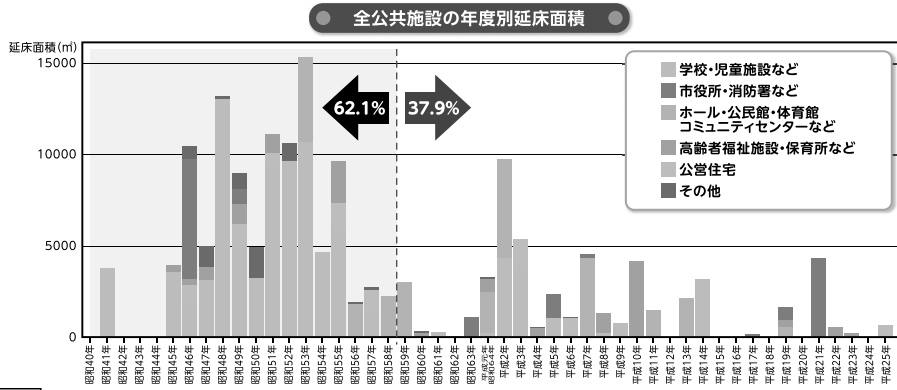


表2

これは毎年約42億円必要ということを示しています。

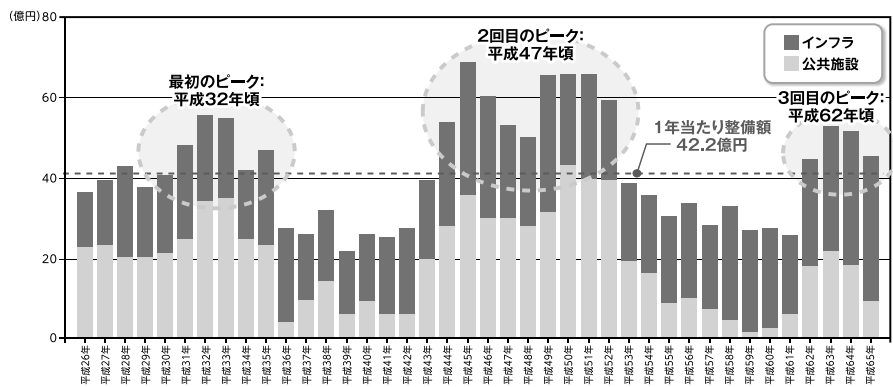
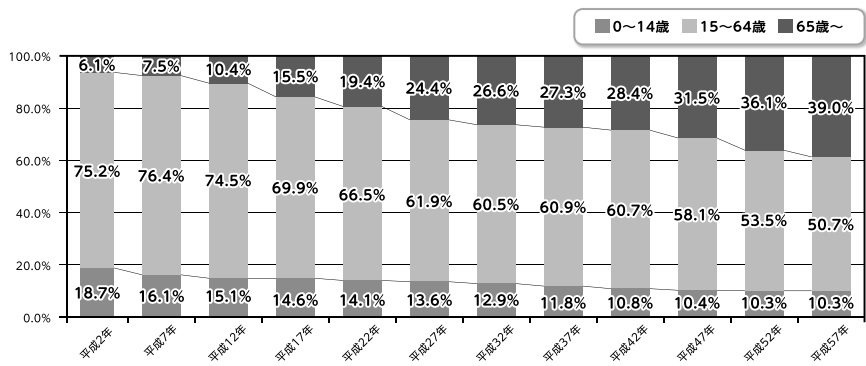


表3

平成47年には65歳以上人口が3割を超え、平成57年には4割近くとなることが想定されます。



耐震性の低い建物や老朽化した建物は、万が一のときに皆さんの命を守れない可能性があります。そのような建物は建て替える必要ですが、一度にすべては建て替えられません。必要なものから順々に進める必要があります。

民間企業ではできないのか、施設の建て替えを考える前にサービスの提供方法についてしっかり検討する必要があります。

⑤生活を支えるインフラを計画的に更新・管理しなければなりません

道路や橋などのインフラ施設は、私たちの「当たり前の生活」を見えないところで支えています。しかし、その更新には莫大な費用がかかります。将来を見据えて、市の財政状況を見極めながら、計画的に整備を進める必要があります。



まず、公共施設の「量」を適正なものにする必要があります。

②公共施設の「質」を見直す

公共施設の「質」の見直しも必要です。利用者の少ない施設のサービスの改善、地域に合ったサービスの提供、民間企業のノウハウの活用、利用者が負担する費用を見直すことで量を減らしながらも質を高めます。

③公共施設を「長く」使う

「壊しては建てる」を繰り返してはなりません。安全性、耐震性を確保しながら計画的に修繕することで公共施設を長く使うことができます。長生きする公共施設を増やすことで、公共施設にかかるお金を減らします。

④「余っている」公共施設を生かす

人口が減ると公共施設が余ることが予想されます。余った公共施設や土地を売る、または別の利用の仕方を考えることで時代に応じた公共サービスを提供します。余った資産の活用方法は、幅広く外部の意見を取り入れて決定します。

⑤確実に着実に「実行」する

市は、これらの方針に基づき、公共施設の整備や管理を確実に実行します。現実を見据えて体系的で実行性のある計画を立て、それを実行し、前に進めるしくみと体制を構築します。



八潮市公共施設マネジメント基本方針

八潮市公共施設マネジメント白書で明らかになった課題を踏まえ、今後の取り組みの基本的な方針を「八潮市公共施設マネジメント基本方針」にまとめました。

今後、皆さんの安全・安心と適切な行政サービスの持続的な提供のため、5つの基本的な方針に基づき、公共施設マネジメントを推進します。

①公共施設の「量」を見直す

市の財政状況では、すべての公共施設やインフラの更新に対応するのは不可能です。

※八潮市公共施設マネジメント白書・基本方針について、詳しくは、市ホームページをご覧ください。